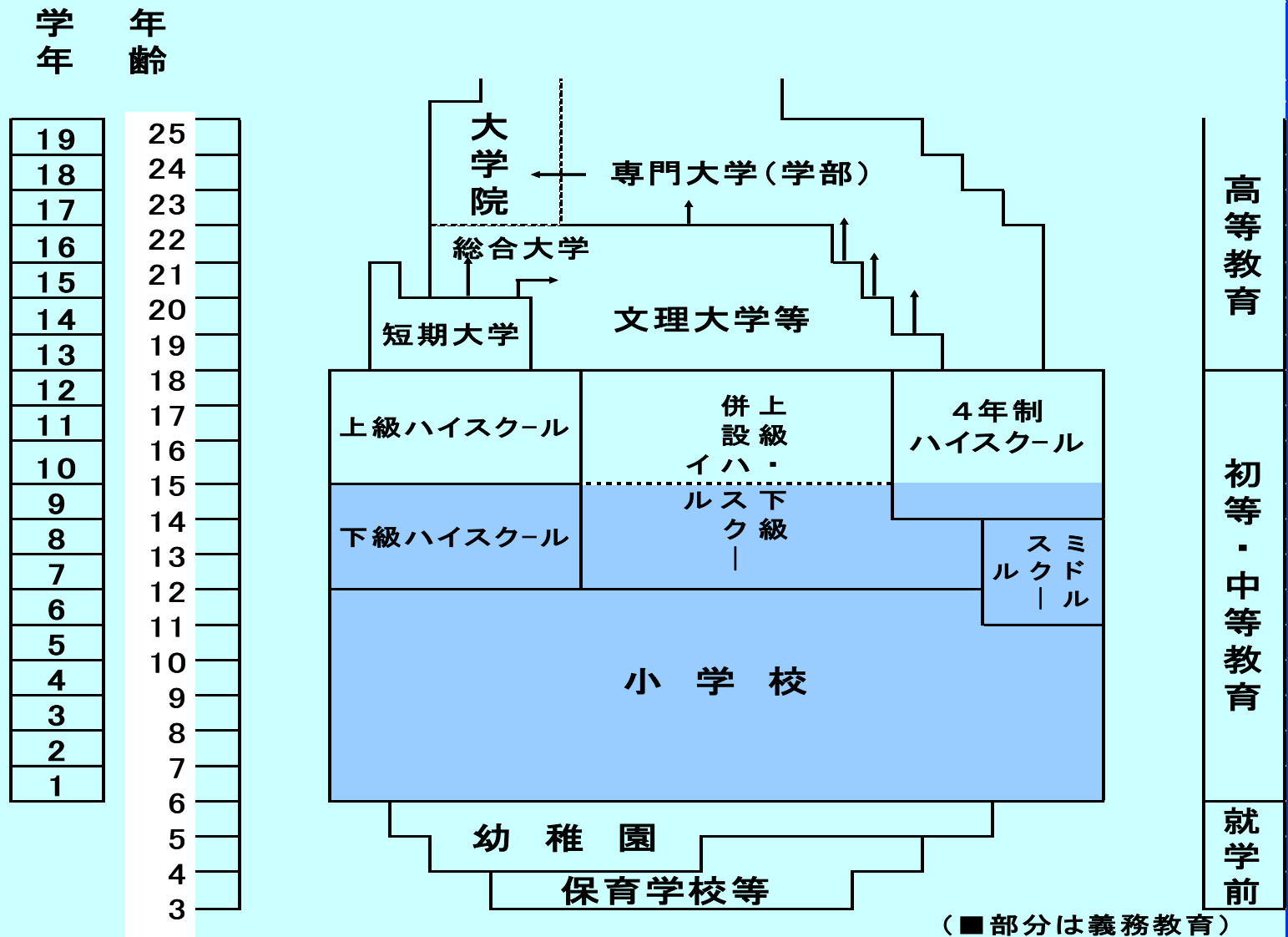


アメリカの入試制度

石岡 恒憲（大学入試センター）

学校教育制度の概要

アメリカの学校系統図



学校教育制度の概要(Cont.)

- 義務教育後の中等教育への進学率
公立学校における9→10学年の進学率89.2%
(2001年)
- 高等教育への進学率
48.9%(フルタイム) + 12.5%(パートタイム)
= 61.4%(2001年)
パートタイムによる就学者が多い
- 大学1年生の20人に1人はGeneral Educational Development (GED)資格生

入試の流れ

- 共通試験(SAT, ACT) 年複数回実施
 - ジュニア・イヤー 春 or シニア・イヤー 秋
 - 科目テストは履修状況に依存
- 希望大学に出願 (11月~2月)
 - 複数大学の受験が可能
 - 4校までは基本料金
- 合格発表 (3月~4月)
- 入学 (9月)

共通試験

- SAT Reasoning Test, SAT
 - 旧 Scholastic Assessment Test (1994～1996)
 - 旧 Scholastic Aptitude Test (~1993)
 - カレッジボード主催、ETS 作題
 - 延べ200万人以上(2005)
- American College Testing Program or American College Test, ACT
 - 延べ120万人(高校卒業生の40%、2005)

出題教科・科目

- SAT
 - Critical Reading (旧Verbal、言語能力)
 - Writing (エッセイ、2005年より)
 - Math (数学; 代数、統計、幾何)
- ACT
 - 英語 (国語)、数学、読解、自然科学の4分野
 - エッセイ (オプション、2005年より)

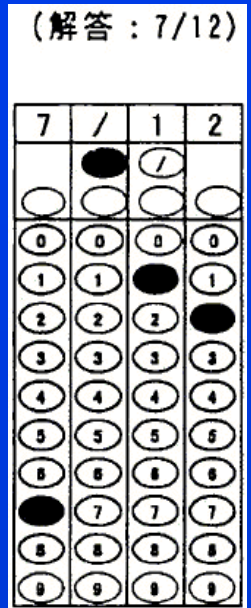
出題・解答方式

- SAT

- 多肢選択 + grid-in (数学): マークシート
- エッセイ (自由記述、手書き): 機械読み取り
- (関数機能つき) 計算機の持込み可

- ACT

- 多肢選択: マークシート
- エッセイ (自由記述、手書き): 機械読み取り
- (四則演算機能のみの) 計算機の持込み可



©CollegeBoard

採点方法

- ・ マークシート → 機械採点
- ・ エッセイ
 - 2人の採点者が独立に採点(1–6点)
 - 2点以上の違いがあるときには3人目が採点、調整点を決定
 - Holistic Rating (総合判定)
 - 採点のための訓練、認定

スコア

- SAT
 - CR200-800, M200-800
 - W200-800 (多肢選択20-80, エッセイ1-12)
- ACT
 - 各科目1-36
 - エッセイ (Writing) を受験したとき、
Combined English/Writing score = English
× (2/3) + Writing × (1/3) 整数に丸める
 - エッセイサブスコア1-12

特徴

- 複数回受験可能
- SAT年7回、ACT年6回
- 試験問題の再利用
 - 試験問題の非公開
 - 採点されない問題の存在
- 素点ではなくスケール化された点
 - 複数試験を比較可能(等化)

個別試験

- 個別の学力試験はない
- 願書＋共通テスト＋高校の成績＋推薦状＋(面接)
- SAT Subject Tests (科目試験: 英語、歴史・社会学、数学、自然科学、語学の5科目)
- 受験科目は志望する大学・学部による
- 予め指定する大学/出願者が選べる大学/スコアを求めない大学
- SAT or ACT は大学による; 換算表あり
- SATは両海岸、ACTは中西部と東南部

SATとACTの違い

- SAT: reasoning test (問題解決型) vs ACT: achievement test (達成度判定型)
- ACTでは関数電卓の使用不可、原則として語彙力テストなし
- SAT: 当て推量による減点あり(5択なら不正解で-1/4)、ACT: なし
- スコア通知
 - SAT: 受けた全てのスコアが送られる; 最高点利用
 - ACT: 送りたい試験日のスコアのみ通知

最近の動向

- エッセイ試験の採用
- 達成度判定テストへの移行
 - (1) SAT改訂の背景
 - (2) ACTへの高い評価

エッセイ試験の採用

- SAT(2005年3月)、ACT(2005年2月)
- 25分、必須 vs 30分、オプション
- Writing: 大学や将来において成功するための重要なスキル

達成度判定テストへの移行

- SATの改訂(2005年3月)
 - 受験生が高校時代に学習してきたことをより反映させるため
- Math 代数IIの追加
- Analogies削除: 高校のカリキュラムと直接的に結び付いていない; 出題形式が語彙の単純暗記を促進
 - “runner” and “marathon”
 - “oarsman” and “regatta”

(1) SAT改訂の背景

- 1990年 ブルーリボン委員会による報告書
“Beyond Prediction (予測を越えて)”
- 1994年 改訂
 - 反意語antonymの問題が削除
 - より長文の読解が追加
 - 数学:Grid-In追加、電卓の使用
- Writing Sectionを加えるべきとの提言
 - Pearson Educational Management社のインターネットに基づいた採点システム ePen ; 2005年導入

(2) ACTへの高い評価

- 商業テスト予備校(Kaplan, The Princeton Review)
 - “ACT is fundamentally better than the SAT”
 - あいまい性がない; 知識ベースの問題である
(Cracking the ACT book, Princeton Review)
- ACT受験者の増加
 - 9%増(2001→2005)
 - マイノリティ 高校卒業生24%(2001)→27%(2005)
 - ACT enrollmentはSATのそれと同じ(2005)

わが国への示唆

- アメリカにおける最近の動向
 - 検討に値するだろう
- 入試改革/改訂の最終目的
 - 大学での成功を予測するための妥当性向上
 - Writingセクション追加 → 大学1年次成績の予測妥当性(相関係数)増加 (.43 → .46)
 - 多くの研究が試験計画・実施に寄与

ご清聴ありがとうございました